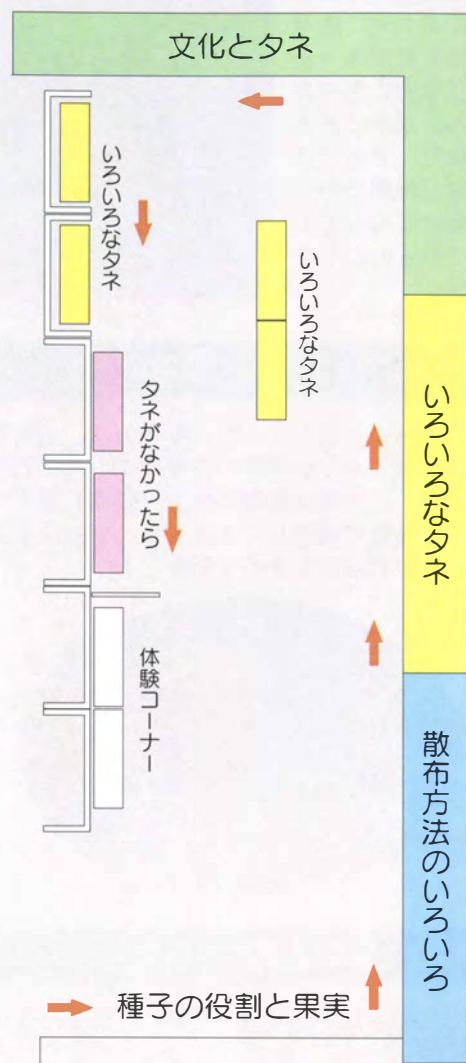


会場案内



展示協力者

秋田県立博物館・山形県立山形東高等学校
山形県立村山農業高等学校・大場惣吉商店
高橋悦雄・平田雅士

利用案内

■開館時間

午前9時～午後4時30分

* 11月1日～3月31日は午前9時30分の開館。

* 最終の入館は午後4時まで。

■休館日

毎週月曜日・国民の祝日

* 5月3～5日と11月3日は開館します。

くん蒸期間 11月22日～12月6日

年末年始 12月27日～1月4日

■入館料

	個人	団体(20名以上)
大人(成年者)	300円	150円
小人(未成年者)	150円	70円
学生	150円	70円

*小学生・中学生、高校生、障害者の方は無料です。

■入館料無料の日

こどもの日5月5日 文化の日11月3日

■交通案内

- ・JR山形駅より徒歩15分
- ・車の方は、霞城公園の北門からお入りください。
駐車場10台。他所にも駐車場の場所あります。



山形県立博物館

〒990-0826 山形市霞城町1-8 (霞城公園内)

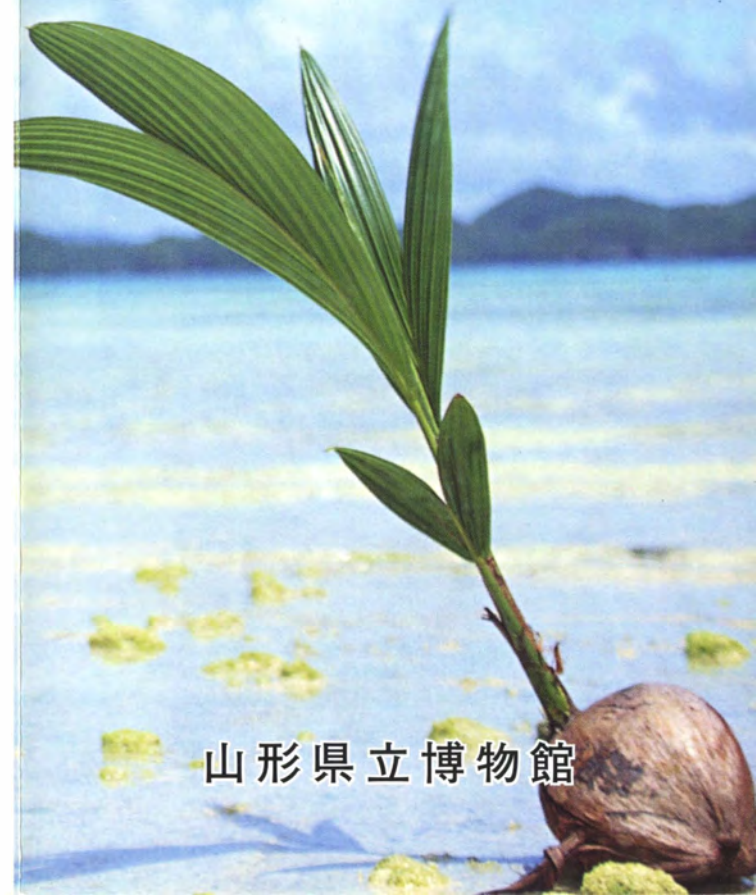
☎023・645・1111

URL <http://www.pref.yamagata.jp/ky/museum/kymuseum.html>

企画展

タネにまつわるエトセトラ

平成16年9月25日(土)～11月7日(日)

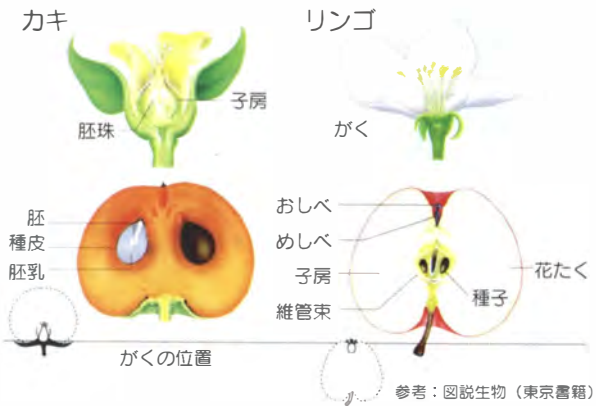


山形県立博物館

種子の役割と果実

すべての生物に共通していることの一つに、自分たちの仲間を増やす性質があります。植物はその目的のために種子を作ります。種子は発生的には花の時の胚珠が発達したものです。被子植物では、種子が果皮に包まれ果実を形成しています。花のどの部分が果実になるかなどによって様々に分類されます。

花と実のつくり



風に乗る



水に流れる



動物を利用する

いろいろなタネ

タネや果実には散布方法にあわせて様々な形のものがあります。日本や世界のおもしろい果実やタネを展示し、それぞれの植物が仲間を増やすためにどんな工夫をしているのかを考えます。



文化とタネ

世界の人々の主食となっているものは、イモ類をのぞくとほとんどが植物のタネです。食糧としてだけでなく、人間は植物のタネ（果実も含めて）を様々な場面で利用してきました。今ではあまり見られない利用法も含めて紹介します。



散布方法のいろいろ

種子をつくることによって仲間が増えればより広い生活空間が必要になります。動物の場合は、子があがる程度成長すると、親から離れて新しい場所で生活を始めます。しかし、植物は自分では移動できません。そこで植物は様々な方法でタネを散布します。ここでは散布方法とそれに応じたさまざまな形のタネを紹介します。



はじける・自然に落ちる

タネがなかったら



植物は、種子を作らずに分布を広げられるのでしょうか。植物の組織の一部を切り取り、培養し植物体を再生するバイオテクノロジーも紹介しながら、種子を作らずに植物が分布を広げる方法について紹介します。